

令和 5 年 6 月 22 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20K00021

研究課題名（和文）九鬼周造の全集未収録原稿等の整備・解読・解釈に向けて

研究課題名（英文）Maintenance, Transcription and Interpretation of Manuscripts in KUKI Shuzo Collection

研究代表者

川口 茂雄（Kawaguchi, Shigeo）

上智大学・文学部・准教授

研究者番号：90830050

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：研究期間にコロナウイルス禍による社会活動の制限が大きく重なり、当初計画とは異なる可能な事柄を実行するかたちとならざるをえなかった面は多かったが、そうではあるものの、甲南大学九鬼周造文庫に未分類のまま保管されていた資料の一定数について、調査検討の結果、これを九鬼自筆の書簡草稿および九鬼宛ての書簡として認定するにいたった。この認定は、日本哲学研究・日本哲学史研究においてひとつの画期をなす研究成果である。2021年10月に大学の広報部署を介したプレスリリースのかたちで公開し、また新聞社による取材に対応した。資料の調査解読については今回研究期間内でのアウトプットには至らなかったが、今後も継続する。

研究成果の学術的意義や社会的意義

九鬼自筆の書簡草稿および九鬼宛て書簡の発見は、日本哲学研究・日本哲学史研究の文献学的側面における画期的な学術的成果である。また思想研究的側面においては、各年度「九鬼周造記念講演会」シンポジウムの記録をオープンアクセス形式で公開し、研究者だけでなく一般市民にもアクセスしやすいという社会的意義を有する、学術研究水準のアウトプットを実現した。あわせて当研究が見出した課題点として、現在の国内の実情において、資料としての位置づけや分類がなされていない手書き資料の広範な調査・研究の必要性がある。知見を有する専門研究者と、文化財たる貴重資料を所蔵する機関との有意義な情報共有や連携を促進する必要がある。

研究成果の概要（英文）：Under restrictions of the social activity due to COVID-19, the initially scheduled research plan was forced to change. However, our investigation has revealed that manuscripts archived in Kuki Shuzo Collection of Konan University Library are the letter drafts handwritten by Kuki himself and the letters addressed to Kuki. These philological findings are research results that are of great importance to historians of Japanese philosophy, giving new perspectives to the philosopher's life and thought.

研究分野：哲学

キーワード：哲学 九鬼周造 手書き資料 書簡 哲学史 日本哲学史 J 哲学 西洋哲学史

1. 研究開始当初の背景

甲南大学九鬼周造文庫で保管されている物品資料のうち、分類がおこなわれていない未整理の手書き資料等が一定数存在することがわかった。九鬼周造という世界的に著名な哲学者の自筆資料等であるならば、学術研究における第一級の重要な文献であると言える。日本哲学の研究が国際的にも活況を示している昨今の研究の状況に照らせば、なおさら注目すべきものである。その調査と文献学的に適切な扱いを検討すべく、本研究を立ち上げることを計画したのが、研究開始当初の基本的な背景であった。

これは、九鬼という一人の世界的に著名な哲学者に関連する未整理手書き資料の取り扱いという一つの個別事例であると同時に、所有権、著作権、プライバシー等の何らかの要因への考慮が過去に存在したなどの理由で性質や扱いが不明確になっている哲学思想関係の貴重資料にかんする学術的に適切な措置をめぐる一般的な問題の具体的一事例でもある。

なお、注釈的に述べておこなうならば、九鬼文庫の所蔵資料の管理や経緯にかんしては、不明なことが多い。顧みれば 1980-82 年に刊行された『九鬼周造全集』は明らかに甲南大学所蔵の手書き資料群の一部を参照しているはずであるが、しかしながら甲南大学所蔵資料との編集上の関係は明記されておらず、底本が不明な文章が複数収録されている形になっており、文献学的に不備があった編集と言える。『全集』の編集委員は当時かなり高齢のメンバーであり、そのうちの筆頭格で九鬼の親友でもあった天野貞祐は刊行開始を待たずして逝去しているが、書簡等を『全集』に含めなかったのはある時の天野の口頭での短い発言が理由であったとの関係者の証言もあり、現代的な学術的観点からすれば、編集方針にいくらかの不明確さがあったものと考えられる。1995 年の阪神淡路大震災で甲南大学のキャンパスには直接的な被害が生じ、図書館および所蔵資料にも影響があった。その後、貴重資料のメンテナンスについての計画が立てられ、さらに 21 世紀に入った頃からは、デジタル化によって資料原本の保全と将来的な資料公開可能性の確保が計画されたようである。だが、他方で震災以降のこうしたプロセスに際して、研究者としては学内の一名の教授のみがこの資料にかんする業務にもっぱら携わることになったようで、一名の教授と一部の図書館職員を除いて他の者には資料管理がいわば不透明なブラックボックスと化していた側面がおそらくあったものと推測される。その約四半世紀の間、学内外の研究者による資料の閲覧調査は一切不可とされていた模様である。そしてこの一名の教授はデジタル化および公開方針の策定等に一定の目途が立つ前に在職中に逝去しており、以後、資料管理の学術的指針が宙に浮いた状態になっていたものとおおよそ推定される。いまなお不明な点が多いが、以上は、当研究開始当初の背景に含まれるいくつかの文脈要素であった。

2. 研究の目的

哲学的・哲学史的な研究の国内外での発展に寄与することを目指し、将来において、最終的には、九鬼周造関係の手書き資料群にかんして、公開、条件付きで研究者には公開、当面非公開、という分類をすべての資料に対して実施し、公共的な文化財としての資料および公共的な機関としての大学図書館が社会において適切な役割を果たすかたちを整えることが、目的として設定された。にかんしては注釈付きの新たな書籍出版物を企画することも学術的には適切であろう。

ただし、今回研究の対象となる貴重資料の数量および内容の複雑さにかんがみて、今回の三年間の研究期間内に、上掲のこれら目的が完了するとは当初より想定していない。そのための準備作業期間として、当研究課題は中長期的には位置づけられるものである。

かつ、実際の実施には、コロナウイルス禍による社会活動の大幅な制限の開始時期と当研究課題の開始時期とが重なるという、かなり特殊な外的条件が生じたことによって、進展はさらに当初予定から遅れることは不可避となった。

3. 研究の方法

活字化された文献での哲学・哲学史研究とは異なる性質の、文献学的方法論が要される研究課題となった。手書き資料には解読の困難さの度合いがあり、明治・大正期の毛筆の作法は多くの場合私たち 21 世紀の人間にとってすでに馴染みのない書記の様態となっているため、きわめて解読が難しい事例もなんら稀ではない。とくに、今回の調査対象には九鬼以外のさまざまな書き手による九鬼宛ての書簡が数多く含まれており、書き方の特徴が書き手一人ひとり別様であることに由来する推測の困難さがあり、ほとんど判読できないようなものも一部存在する。

しかしながら、九鬼自身による書簡草稿は、一定程度の分量で現存している他の書簡・原稿等からの筆跡を把握してそこから推測して文字を判読することや、文脈・執筆時期の推測といった

方法論の適用が一定程度には可能である。当研究課題では途中から小浜善信・神戸市外国語大学名誉教授の協力も得ることができ、このプロセスを経た結果、それらを九鬼の自筆書簡草稿であると認定するに至った。

4．研究成果

調査検討の結果、甲南大学九鬼周造文庫に未分類のまま保管されていた資料の一定数について、これを九鬼自筆の書簡草稿および九鬼宛ての書簡として認定するに至った。この認定は、日本哲学研究・日本哲学史研究においてひとつの画期をなす研究成果である。

また、この資料発見・認定について、2021年10月に大学の広報部署を介したプレスリリースのかたちで公開し、その後新聞社による取材に対応した。取材を経て、二社の日刊紙に記事が掲載された。特に朝日新聞のほうではかなり詳しい取材をしていただいております、そのことが掲載記事に直接間接に反映されている。この新聞記事掲載によって、一般市民にたいしても可視化された形で当研究課題の意義および哲学者関連貴重資料の意義についてアウトリーチ的に公開的に訴えることを実現できたと評価してよいであろう。

同時に、プレスリリースの公開の以後は、専門研究者からも問い合わせ等が複数あった。資料の整備・判読がまだ緒に就いたところである現段階においては問い合わせに十分にお応えすることができない面が多かったが、今後の研究の進展への期待、および次の段階でのより幅を広げた研究体制の構築という課題が見えてくる経緯であったと言える。中長期的な計画検討を今後おこなってゆきたい。

くわえて、思想的・哲学的研究の側面においては、コロナ禍下での様々な制限のためオンライン形式を活用して、九鬼周造記念講演会の開催を実施し、複数の学術的角度から九鬼哲学への新たなアプローチを講演者から提供いただき、また公開のディスカッションを通して講演会参加者との意見交換を実現することができた。講演会の内容はディスカッション部分を含めて活字化しており、かつオープンアクセスの形で公開し学術的・社会的な貢献を意図している。

さらなる詳細な資料調査・解読（出版を想定した文字起こし等）また2021年時点では存在を把握していなかった別の手書き資料の調査等については、慎重な吟味作業を継続しており、今回2022年度までの研究期間内でのアウトプットには至らなかった。これらについてはもちろん、今後研究を継続する。早ければ2024年にも新たなアウトプットを公表できるよう準備してゆく。

あわせて、当研究の進展とともに明らかになってきた課題点に、現在の国内の実情において、資料としての位置づけや分類がなされていない手書き資料の調査・研究の必要性という点がある。当該分野の専門家の眼に触れなかったがために重要な資料が死蔵や廃棄におちいらぬよう、知見を有する専門研究者と、文化財たる貴重資料を所蔵する機関とのあいだでの有意義な情報共有や連携を促進する必要がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 串田 純一、浦井 聡、川口 茂雄	4. 巻 23
2. 論文標題 第2回九鬼周造記念講演会 シンポジウム「偶然に響く言葉の行方」二〇二一年三月四日 於・ZOOMによるオンライン開催	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 心の危機と臨床の知	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14990/00004123	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 川口茂雄	4. 巻 171
2. 論文標題 ラシュリエ『パスカルの賭けについての覚書き』再読 神の存在証明から“私”の賭けへ、あるいはフランスにおける超越論的哲学の誕生	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 甲南大学紀要・文学編	6. 最初と最後の頁 205-220
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14990/00003775	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山口 尚、千葉 雅也、川口 茂雄	4. 巻 24
2. 論文標題 [公開シンポジウム報告] 第3回九鬼周造記念講演会 シンポジウム「J 哲学の最前線」二〇二二年二月九日 於・Zoom によるオンライン開催	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 心の危機と臨床の知	6. 最初と最後の頁 七六～九九
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14990/00004557	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 1件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 川口茂雄	
2. 発表標題 ラシュリエ『パスカルの賭けについての覚書き』 解釈と19・20世紀哲学史における意義解明に向けて	
3. 学会等名 哲学会第五十九回研究発表大会 第1日 ワークショップ（招待講演）	
4. 発表年 2020年	

〔図書〕 計1件

1. 著者名 川口 茂雄、越門 勝彦、三宅 岳史	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 442
3. 書名 現代フランス哲学入門	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>プレスリリース(2021.10.26)「哲学者・九鬼周造による直筆の未公表書簡などを発見」 https://www.konan-u.ac.jp/news/wp/wp-content/uploads/2021/10/public-relations-department-limited/20211026pressrelease.pdf 九鬼周造の書簡草稿見つかる 西田幾多郎、林芙美子からの書簡も (朝日新聞2021年11月13日付) https://digital.asahi.com/articles/ASPCF36FFPC1PIHB02F.html 【公開研究会/シンポジウム】第2回九鬼周造記念講演会「偶然に響く言葉の行方」<3/4> https://www.konan-u.ac.jp/kihs/news/archives/3297</p>
--

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------